

会社名: コダック株式会社
担当部門: ドキュメントイメージング アンド ビジネスプロセスサービス事業部
所在地: 東京都千代田区神田駿河台 2-9 研究社ビル (〒101-0062)
電話番号: 03(5577)1380 FAX: 03(5577)1333

緊急連絡先: (財)日本中毒情報センター【中毒 110 番】
(事故に伴い急性中毒の恐れのある場合に限る)
9時から17時まで:0990(52)9899 (ダイヤル Q2 有料)
又はダイヤル Q2 を利用できない医療施設の場合は 0298(51)9999
これ以外の時間帯:0990(50)2499 (ダイヤル Q2 有料)
又はダイヤル Q2 を利用できない医療施設の場合は 06(6878)1232

MSDS No.000011071/F/USA/JP

承認日:1999年2月16日

作成日:2002年4月1日

1 製品名

コダック ドキュメントプリンタ S12 カートリッジ ブラック

CAT No.822 1376

原産国:アメリカ合衆国

2 物質の特定

混合物

成分	重量%	CAS No.	PRTR 政令番号
水	>70	7732-18-5	
2-ピロリジノン	<10	616-45-5	
企業秘密有機物質	<10	該当なし	
炭素微粉末	<5	1333-86-4	
イソプロピルアルコール	<3	67-63-0	

3 危険・有害性の分類

危険 : この物質に含まれる成分の毒物学上の特性は全てが調査済でなく、またその取り扱いおよび使用に危険が伴う場合がある。皮膚と眼に炎症を起こすことがある。

4 応急措置

吸入した場合 : 症状が出たら、空気の新鮮な場所へ移動する。症状が続くならば、医療手当てを受ける。
眼に入った場合 : 直ちに清浄な水で15分以上洗浄する。医療手当てを受ける。
皮膚に付着した場合 : 直ちに汚染した衣服、靴を脱ぎ石鹸と大量の水で洗う。症状が出たら、医療手当てを受ける。汚染した衣服は再利用の前に洗う。汚染した靴は破棄するか、徹底的に洗う。
誤飲した場合 : コップ1~2杯の水を飲む。医師のアドバイスを受ける。

5 | 火災時の措置

- 消火手段 : 散水、二酸化炭素(CO₂)、粉末消火剤、アルコール泡沫
- 火災時の特別対応手段 : 呼吸用保護具と保護衣を着用する。火災や過度の熱により危険分解物質を生じる可能性がある。
- 製品の燃焼の危険性 : 一酸化炭素、二酸化炭素、窒素酸化物
- 異常火災/爆発の危険性 : インクは可燃性だが、カートリッジの容量範囲内では問題なし。

6 | 漏出時の措置

多量の水と共に下水に流す。または、パーミューライトまたは不活性物質に吸収させ、化学物質廃棄用の容器に回収する。残留汚物を取り除くために表面を清掃する。

7 | 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い : 蒸気を長時間あるいは繰り返し吸い込まない。眼、皮膚、衣服への付着を避ける。換気のよい場所で取り扱う。取扱後はよく洗う。
- 火災や爆発の防止 : 酸化物質に近づけない。
- 保管 : 密栓して保管する。

8 | 暴露防止措置

- 許容濃度 : ACGIH (T₁₀V₁₀L)
- 炭素微粉末 : 3.5mg/m³ TWA
- イソプロピルアルコール : 400ppm TWA、500ppm STEL
- OSHA (PEL-1971 Table Z-1 Values)
- 炭素微粉末 : 3.5mg/m³ TWA
- イソプロピルアルコール : 400ppm TWA
- 換気 : 一般的に換気の良い場所で扱う。(10 air changes/時間)。換気の時間は環境に合わせる。
- 呼吸器の保護 : 必要なし。
- 眼の保護 : 破損したカートリッジを取り扱う際、側板付き眼鏡(ゴーグル)を着用。
- 皮膚の保護 : 破損したカートリッジを取り扱う際、不浸透性の手袋を着用する。
- 浄化する設備 : 洗眼機、身体洗浄の設備(安全シャワー)を推奨する。

9 | 物理・化学特性

- 外観 : 液体
- 色 : 黒
- 臭気 : 無臭
- 沸点 : >94°C-99°C
- 蒸気圧 : 不明
- 蒸気密度(空気 = 1) : 不明
- 揮発留分(重量) : 75%
- 比重(水 = 1) : 1.04
- 水溶性 : 完全
- pH : 8.0
- 引火点(インク) : 61-93°C

10 | 危険性情報 (安定性・反応性)

安定性 : 安定
 不適合物質 : 強い酸化剤
 危険重合物質 : 発生しない。

11 | 有害性情報 (暴露の影響)

この物質には未調査部分があり、取り扱いに危険が伴うことがある。
 吸入 : 危険性は少ないと予想される。
 眼 : 知見なし。炎症を起こす場合がある。
 皮膚 : 知見なし。炎症を起こすことがある。
 誤飲 : 知見なし。危険性は少ないと予想される。胃腸の管に炎症を起こすことがある。
 IARAC では、炭素微粉末をグループ 2B (人に対する発がん性を持つ可能性がある) に分類している。危険を回避するため、妊婦や授乳中の婦人には近づけないように管理することが望ましい。

12 | 環境影響情報

この物質が環境に及ぼす影響について、試験は行われていない。

13 | 廃棄時の注意

特別管理産業廃棄物には該当しない。
 自社で廃水処理設備を所有していない場合には、全量を回収した上で、専門の廃液処理業者に委託して処理する。
 少量 : 多量の水と共に下水に流す。
 多量 : 法規に従い、焼却する。

廃棄時に該当する法規
 化学物質管理促進法 (PRTR 法)
 廃棄物処理法 : 産業廃棄物 (廃アルカリ)
 水質汚濁防止法 : 生活環境項目
 下水道法 : 下水の排除の制限

14 | 輸送上の注意

Air Transportation
 Class : -----
 UN-No. : -----
 Proper Shipping Name : -----
 Subsidiary risk : -----
 Packaging group : -----
 Passenger aircraft : -----
 Cargo aircraft only : -----
 Further information : -----

15 適用法令

下記参照。

化学物質管理促進法 (PRTR 法)	:	-----
毒物劇物取締法 (毒劇法)	:	-----
労働安全衛生法 (安衛法)	:	-----
消防法危険物分類 (消防法)	:	-----

発がん物質分類 (含有率 0.1%以上含むもの)

IARC	:	炭素微粉末	グループ 2B
ACGIH	:	炭素微粉末	グループ A2 (人に対する発がん性については分類出来ない)
NTP	:	なし	
OSHA	:	なし	

16 その他

危険・有害性の評価は必ずしも十分ではないので、上記の内容は補足の情報と見なし、取り扱いには十分注意して下さい。